

令和2年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493800120	事業の開始年月日	平成21年10月1日	
		指定年月日	平成27年10月1日	
法人名	株式会社 ニチイ学館			
事業所名	ニチイケアセンター荏田東			
所在地	(〒224-0006) 神奈川県横浜市都筑区荏田東4-18-23			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和2年10月25日	評価結果 市町村受理日	令和3年2月4日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者のいままでの人生で培った価値観・人生観を尊重する介護を目指します。</p> <p>今までの生活習慣を大切に、入居された方が安心して自分らしい生活ができるように本人や家族からの情報を元に、様々な活動に取り組んでいます。</p> <p>入居者の人生のなかで、喜びや楽しみのある機会を多く作れるような支援に努めています。</p>
---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年11月11日	評価機関 評価決定日	令和2年12月22日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、市営地下鉄センター南駅から徒歩約10分の閑静な住宅地に立地している。近くには緑豊かな都築中央公園や遊歩道などがあり、利用者は季節の風景の移り変わりや散歩などを楽しんでいる。建物は鉄骨2階建ての2ユニットでバリアフリー構造である。1階にはテラスがあり、外気浴をしたり、お茶を飲んだりのんびり過ごすことができる。敷地内の菜園で野菜を育て、その野菜を使った料理を作っている。新型コロナウイルス感染症対策マニュアルが法人で整備されており、職員は厳密に対応している。</p> <p><b>【利用者の方の心身の自立と活性化】</b> 理念は「明るい笑顔、愛する心を大切にします」「感謝の心を大切に、真心をこめて介護します」「プライバシーを守ります」の3項目で、事業所は、利用者の心身の自立と活性化に力を注いでいる。利用者の体調管理のため、散歩に出掛けたり、体操やレクリエーションなどを行っている。職員が見守りを重視し、玄関やユニットのドアは開放し、利用者は自由に行動している。利用者の経験や得意なことを生かし、役割分担を決め、「家事お手伝い分担当表」を作成し、食器すすぎ、お盆ふき、食器拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみなどの作業を利用者は担っている。利用者は自分のやりたいことをしながら、ゆっくりと生活のリズムを作っている。</p> <p><b>【手作りにこだわったアットホームな支援の実践】</b> 職員は利用者の笑顔を大切に考え、まずは職員自身が笑顔で対応するよう努めている。入居前のアセスメントから、利用者像を把握して、その人の好みに合った部屋の表札を手作りし、色紙に似顔絵を描いて歓迎している。</p> <p>職員の提案で、利用者の好みに応じるため、献立付き食材配食業者の利用をやめて、職員が買い出しに行く方式に変更した。季節の行事などでは、手作りのメッセージカードやプレゼントを欠かさず作製し、毎週水曜日には手作りおやつや折り紙を楽しんでいる。</p> <p>室内運動会を計画して、手作りの賞状を手渡し、利用者の健闘をたたえている。手作りへのこだわりが家庭的な雰囲気を出し、利用者や家族、職員間のコミュニケーションを深め、チームワークの良さにもつながっている。新型コロナウイルス感染症の影響で外出や面会が制限される中、職員は出来る限り多くのレクリエーションを積極的に計画している。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター荏田東
ユニット名	そよ風

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	ニチイケアセンター荏田東
ユニット名	わかば

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を事務所玄関に掲示し、毎月のホーム会議研修にて復唱し、理念の共有に取り組んでいる。	「明るい笑顔、愛する心を大切にします」「感謝の気持ちを大切にし、真心をこめて介護します」「プライバシーを守ります」の3項目を事業所理念としている。開所時の管理者と職員で作成したもので、玄関、事務所、タイムカードの近くなど、目の付きやすい場所に掲示し、いつでも確認できるようにしている。毎月のホーム会議でも復唱している。利用者の笑顔を大切にするために、まず職員自身が笑顔で対応するよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や小学生との交流や職場体験などを受け入れ、地域の一員として日常での地域の方々への挨拶、時には問いかけ、世間話を心がけている。	荏田4丁目東自治会に加入している。自治会や小学校との交流、ボランティアの受け入れなどは、新型コロナウイルス感染症対策で中止しているが、天気の良い日は、近くの公園や遊歩道を散歩して近隣の方と挨拶を交わし、ヤーコンなどを頂いている。例年、事業所の菜園で実施している小学生との芋ほりも中止になったが、利用者と職員で掘り出したサツマイモを学校に届け、先生から感謝の電話を頂いている。小学校との交流は、来年3月までには実施したいと、双方で検討している。	

3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>家族に対して認知症の理解や介助方法などの相談やアドバイスを行っている。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>三か月に一度運営推進会議を開催している。 地域の方（民生委員や家族、医師、看護師）に参加していただき、活動報告や外部評価結果などの報告を行い、参加者の意見を活用しサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>3ヶ月に1回、場所は玄関近くの風通しの良い場所に椅子を並べて開催している。参加メンバーは、家族代表、近隣住民、自治会班長が出席している。事業所の運営状況や外部評価の結果報告、情報交換などを行っている。「このような事業所があることで、お年寄りとの交流ができるので良い」という小さな子どもを持った近隣の方の声がある。都筑区の担当職員や消防署の方から、スケジュールが合えば参加したいという回答を得ている。</p>	<p>新型コロナ感染症対策のもと、なかなか開催ができにくい状況です。スケジュールが合えば参加できるとの回答を得ている方もいるので、早めに日程を決めて区役所や地域包括支援センターにも声をかけ、書面による開催なども検討し、2ヶ月に1回開催することが望まれます。さらに、書面開催などの検討を期待します。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営上の留意点やサービス提供などについて、市の担当者に連絡をとり、指導を仰いでいる。市職員の運営推進会議への出席はない。</p>	<p>都筑区高齢・障害支援課が窓口で、管理者は毎月、事業所の状況報告をし、要介護認定の更新申請の代行などでも出掛けている。入居状況の報告の際には、パンフレットを置いてよいとの許可も頂いている。外部評価報告書も届けており、密接な関係を保っている。横浜市高齢者グループホーム連絡会に加入し、他の事業者と情報交換している。新型コロナ感染症対策で、今年は開催されていないが、ZOOMでの会議開催の可能性について問合せがあった。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修にて、ホームの方針や身体拘束の悪い影響や行政への報告書作成義務などについて職員への周知を行い、実施できるよう指導を行っている。 日中玄関は施錠せず、思いの傾聴や気分転換の活動を行っている。身体拘束委員会にて毎月会議を行い身体拘束防止に努めている。	身体拘束をしない旨、運営規程などに明記している。毎月「身体拘束適正化検討委員会」を開催し、事業所内の研修を管理者が講師となり、法人のテキストを活用して実施している。玄関やフロアの鍵は開放しているが、玄関の近くに事務所があり、いつでも職員が見守る体制ができている。言葉による暴力についても、「ダメ」などの言葉は使わないように注意し、傾聴を心掛けている。不意の外出の要望などにも職員と利用者のコミュニケーションを大切に理由を探り、散歩などで気持ちを切り替えるように工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修にて虐待事例などを周知し、ホーム内での虐待防止に努めている。 毎月のホーム会議の際に情報共有を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権、自己決定の取り扱いなどについて各ケース毎にOJTを行っている。 権利擁護や成年後見人制度について情報提供も実施している。		

9		<p>○契約に関する説明と納得          契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約は入居者と家族との最初の共同作業であると考え、必要書類について十分に説明を行い、家族からの質問にも丁寧に答えながら、信頼関係の構築に努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議において、家族代表者にホームの運営と改善点や要望についての意見を頂いている。          面会時やケアプラン更新時にも家族の意見を聞く機会を作っている。</p>	<p>家族会や運営推進会議、行事の際に家族の意見を聞いているが、今年はまだ、新型コロナウイルス感染症対策で家族会を開催していない。事業所の行事も利用者と職員だけで行っており、電話で家族の要望を聞いている。家族には利用者の様子を「ほほえみだより」に写真を添えて伝えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ホーム会議を行い職員からの意見、提案を聞く機会を設けている。必要時には個別面談の機会を設けるように取り組んでいる。	毎月のホーム会議やユニット会議、朝礼、引継ぎ時、日常の支援の中などで職員の要望や意見を聞いている。ホーム会議には休みの職員も参加して、行事の計画などを提案している。従来のカラオケやランプ、かるただけでなく、利用者の声を集めて、新しいものができないか、積極的に検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の生活背景を理解し、勤務時間の調整など就労環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修は全体計画に基づいて実施している。 外部研修の情報提供を行い、希望する研修に参加できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の方と情報交換を行い参考点は積極的に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を元に本人からの話を十分に傾聴し、性格などの把握を行い、他の入居者や職員と安心して共同生活を送ることができるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の不安や要望などの思いを気兼ねなく語る機会を作り、良好な関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、様々な職種の職員と課題分析を行っている。 ニーズを見極め、適切な対応が行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『人生の大先輩』ということを前提とし、『昔取った杵柄』を発揮していただき、古き時代の良さ、新しき時代の良さなど会話の中で、持ちつ持たれつの人間関係を作れるよう努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際はホームの生活状況や課題などを報告・相談し、共に本人を支えていく関係作りに努めている。 また、家族の生活状況の変化についても収集している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の日頃の表情、言動に注意し、心理状態を想像しながら家族・友人の訪問依頼、自宅訪問などを行い、家族と一緒に過ごしてもらおう時間を大切にしている。	いつもは、知人や友人の来訪があるが、今はお断りしている。ほとんどが電話での対応である。毎週定期的に絵手紙や電話がくる方がいる。昔、喫茶店を経営していた利用者で、習慣として朝食はブラックコーヒーとトーストだけの方や、新聞を継続して購読する方もいる。洗濯や繕い物などの日常的な仕事を継続して実施している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を観察し、必要な時に職員がさりげなく声をかけ・橋渡し役に努めている。また、仲の良い入居者から声をかけていただき、笑顔が見られる関係構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に相談できる相談窓口になれるように努めている。 入居中の本人の日々の表情を撮影し、アルバムを作って退去時に家族に手渡している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の会話のから、本人の思いや意向を聞いて、職員で話し合い、本人の思いに沿った生活の実現に努めている。 また、自己表現が困難な方の心情の把握に努め、本人の希望・意向に沿えるよう検討を行っている。	経験豊かな職員が多く、日常の支援の中で、利用者の要望を把握している。特に、散歩や入浴などで1対1になる場面を大切にして、利用者の本音を聞きとるよう努めている。思いや意向の把握が難しい方は、表情やしぐさなどから察している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から思いを語る機会を作り、これまでの暮らしぶりの情報の把握に努めている。 レクの中で『回想法』を用い本人の会話のなかでの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し記録に残し、現状の把握に努めている。 定期的にあセスメントを行い、有する能力や課題や生活への思いについての現状把握に努めている。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング        本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ケアマネと担当介護士を中心にケアプランの作成を行っている。        ケアの内容については他職種での情報交換と検討を行い、様々な意見を取り入れたケアプランを作成している。</p>	<p>2ヶ月毎にモニタリングを実施し、その後、居室担当者と計画作成担当者が中心となり、参加できる職員でサービス担当者会議を開催している。医師が立ち話程度で、参加することもあるが、基本は往診時の「支援経過記録」に基づいて介護計画に反映させている。訪問看護師には時間をとって意見を聞き、家族の要望も取り入れて、介護計画を作成している。短期は6ヶ月、長期は1年で、変化のある時にはその都度見直している。介護計画のサービス内容を「日常生活支援シート」に記入し、それを常に確認しながら、毎日の支援の内容を「介護記録」に記入して、介護計画と日常の支援の連動を図っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映        日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録から介護計画の見直しを行っている。        また、申し送りノートの活用、業務ミーティングでのカンファレンスなどにより職員の気づきの共有に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族の意向をその都度確認し、その時々ニーズに応えることができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生との交流を行い、地域の人々とのつながりを大切にしている。 温かい環境の中で安心して過ごして頂けるように支援している。また、ボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族が希望される医療機関をかかりつけ医とし、受診の支援を行っている。（現在はホームドクターのみ） また、主治医への状態報告や指示受けを確実にし、医療機関との関係づくりに努めている。	利用者全員が内科の協力医を受診しており、往診は2週間に1回である。訪問歯科医は月2回定期的に往診があり、抜歯などで職員が受診に付き添うこともある。往診結果は「支援経過記録」に記入し、情報を共有している。訪問看護師が毎週来訪し、健康管理をしている。歯科衛生士が毎週来訪し、口腔ケアを指導している。薬は薬局が個別に、1日分など小分けにセットしたものを、2週間ごとに届けてもらい、鍵の掛かるところで保管している。職員相互で確認して、間違わないようチェックし、服薬管理している。	

31		<p>○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>入居者の健康管理について職員と看護師の連携に努めている。看護師が必要な助言や指導を行っている。  看護師が健康管理について、相談助言を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院の地域連携室や外来、病棟師長との情報交換を積極的に行い、入居者についての適切な処遇について話し合う機会を持つようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、ホームとして出来ることと出来ないことの範囲について家族に説明している。その範囲のなかで協力医療機関や入居者の主治医と連携しながら出来る限りの対応を行っている。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。重度化した場合には、その都度、再度意向を確認している。対象者がある場合には、看取り介護計画とは別に、個別のマニュアルを作成して対応している。今年は2名の看取りの実績がある。研修は、必要に応じて訪問看護師の指導を受けている。管理者はその都度、職員へのアドバイスをし、精神的フォローをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を作成している。 ホーム内研修にて、緊急時対応についても学ぶ機会を作っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練を実施し、通報設備などを使用して夜間想定訓練を行っている。	今年は2回、4月と9月に避難訓練を実施している。夜間想定訓練や消防署の立ち合いはなく、地域の方の参加もない。災害に備えて、カセットコンロや飲料水、おかゆ、缶詰など食料品を3日分保管し、非常食管理台帳で管理している。個別に利用者のリュックサックを用意し、キャラメル、懐中電灯、カップ、オムツ、タオルなど、必要に応じて個別に準備した物を入れている。避難訓練時には、利用者は自分のリュックサックを背負い、車いすの方も膝の上に抱えて参加している。	夜間を想定した避難訓練を消防署立ち合いのもと実施されることを期待します。更に、事業所の避難訓練に地域の方の参加を希望します。運営推進会議などで地域住民の参加を依頼されることを望みます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーポリシーを掲示し周知に努めている。 施設内の研修にて接遇や個人情報保護について学ぶ機会を作っている。	プライバシーの確保については事業所理念にも明記して遵守している。職員は入職時に法人の接遇研修を受けており、事業所においても毎年実施している。外では利用者の名前を出さないことや個人情報を含んだメールのやり取りをしないように注意し、パソコンはパスワード管理している。個人情報を含む書類は事務所の鍵の掛かったキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思表示を待つケアに努めている。 入居者によっては選択しやすいように二択にして自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは決めず、出来るだけ入居者の意向にそって、その人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、誕生会や外出時には化粧を手伝ったり綺麗な洋服を着て頂いたりしている。 また、四季に応じた洋服や小物類でおしゃれを楽しんで頂いている。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援      食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者の好きな食べ物や旬の食材を献立に取り入れ、クッキングレクとしてメニュー決めや食材の下ごしらえ、盛り付けなど出来る方には積極的にして頂いている。</p>	<p>利用者の「好きなものを食べたい」という要望に応じて、献立付き食材配食業者の利用をやめて、職員による買い出し方式に変更した。献立は職員が栄養バランスやカロリーなど考慮して作成している。調理の出来る利用者と職員が一緒になって、食材の皮むきやきざみなどを行っている。後片付けなども「家事お手伝い分担表」に沿って利用者が積極的に担っている。誕生会やクリスマス、正月などには手作りのケーキやおせちなどを作って楽しんでいる。毎週水曜日にはクッキー、ホットケーキ、どら焼き、お好み焼きなどの手作りおやつを利用者主体で作っている。利用者の体調に応じて、きざみやとろみなどの食形態にも対応している。</p>	
----	----	---	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録に残し、必要な栄養、水分の確保ができるよう支援している。 嚥下状態の悪い方にはトロミをつけて提供するなど工夫している。		
		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。仕上げが必要な方には、一部介助および全介助にて仕上げを行っている。 歯ブラシでの磨きが難しい方にはスポンジブラシや口腔用のウェットティッシュを使用して口腔内の清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて、排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るようトイレ誘導や声かけを行っている。	自分一人でトイレに行くことができる方が3名で、全介助で紙おむつの方が1名、他の方はリハビリパンツとパッドを使用している。基本的には、排泄パターンを把握して、声をかけてトイレ誘導をしている。夜間ポータブルトイレを使用している方が3名いる。トイレは各フロア3ヶ所で、うち1ヶ所は車椅子対応である。	
		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳やヨーグルトをお出しし、植物繊維の多い料理を食事やおやつに取り入れている。 体調に合わせた適度な運動を一日の活動の中に取り入れるよう心がけている。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>基本的には入浴日を決めているが、本人の体調や希望によって曜日や時間をずらすなど柔軟に対応している。</p>	<p>週2～3回、午前中に入浴している。「毎日入りたい」、「夜に入りたい」、「同性介助」などの要望があれば、対応することができるが、現在は特に要望はない。入浴を好まない方には、時間をずらしたり、職員を替えて対応している。しょうぶ湯やゆず湯などを楽しむこともある。ヒートショック対策のため脱衣所にはエアコン、浴室には浴室暖房を設置している。</p>	
----	----	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度な運動を取り入れ、メリハリのある生活リズムを作ることを心がけ、夜間の安眠につなげている。 また、一人ひとりの体調に合わせて体に負担のないよう、日中でも静養時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルし、その都度目的や副作用を確認できるように努めている。 また、薬の変更があった場合は連絡帳に記入し、変更後の薬の作用による体調変化などを観察し、職員間での情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や職務歴などの情報収集を行い、やりがいや喜びを感じて頂くことが出来る役割活動やレクリエーション活動を心身の状態に合わせて一日の活動に取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は施設周辺の散歩に出かけている。	毎日天気の良い日には、近くの公園や遊歩道を散歩している。1階のテラスで外気浴やお茶を楽しむこともある。車椅子の方も散歩に出掛けている。新型コロナ感染症対策で今年は、遠出が出来なかったが、介護タクシーを使って遠出することを利用者は楽しみにしている。外出できない分、職員は、室内運動会など色々なイベントを計画した。運動会では、手作りの賞状を手渡しして健闘をたたえている。	

50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理している。		
----	---	-------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には必要に応じて電話が出来るような支援をしている。本人宛にかかってきた時は電話機の近くに椅子を用意し、話しやすい環境を作っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温もりを感じられるような空間を作っている。 気温に応じ随時ホーム内の温度・湿度調整を行っている。	リビングは明るく、手作りの作品が壁に飾られ、アットホームな雰囲気がある。空調設備や加湿器が備えられており、快適な環境にある。換気には特に注意し、朝夕はもちろん、気が付いた時には窓を開けるよう努めている。清掃は朝と昼、夜間など1日3回実施している。利用者も粘着テープ式の掃除用具を使って、ほこり取りなどを手伝っている。職員は、新型コロナウイルス感染症対策で、法人のマニュアル通り、消毒、換気などを厳守している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係を考慮して、テーブルの席を配置している。活動時も親しいグループで楽しむことが出来るよう環境作りをしている。 入居者によっては場所を移動して、一人で落ち着いて過ごして頂けるよう支援している。		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い慣れた物を持ち込んで頂いたり、安全に過ごせるよう家具などの配置を考えている。</p>	<p>エアコン、照明器具、クローゼット、カーテン、スライド式ハンガーが備え付けられている。利用者は使い慣れた家具やテレビ、椅子や時計、写真、仏壇などを持ち込んでいる。居室担当者が季節の衣服の入れ替えや、備品の補充などの管理をしている。居室の前のドアには、利用者の好みに合わせて、花の飾りのついた表札や似顔絵が貼られている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>洗濯干し、たたみや食事等の家事は出来る方には積極的にして頂くよう声かけしている。家具の配置を工夫するなどして安全に過ごせる環境を作っている。</p>		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

ニチイケアセンター荏田東

作成日

令和3年2月1日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		非常災害対策について、運営推進会議、ホーム会議でも検討を重ねているが、今後も継続し、職員間での共有を更に図る。	非常災害対策として、ご近所との連携を深める。	ご近所の方に防災訓練に参加して頂く。家族会等のときにも防災訓練を取り入れてみる。	1年
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。